

## L04a テンペル・タットル彗星の光度曲線について

中村 隆 (電通大)、福島 英雄 (国立天文台)、関口 朋彦 (総研大)、渡部 潤一 (国立天文台)

55P/テンペル・タットル彗星は、33年周期を持つしし座流星群の母彗星として非常に重要視されているが、前回の回帰の時には地心距離が大きく、また、位相角も観測条件に適さなかったこともあり、光学観測のデータがほとんど得られなかった。

今回の回帰では、我々は、三鷹の50cmカセグレン式反射望遠鏡を用いて、1月13日から2月23日まで、約1か月にわたり冷却CCDカメラによる撮像を行なった。天文の一般への広報普及という観点から、観測は主に可視域で行なわれ、フィルターには、R-60, G-533, B-460を用いた。

このデータを測光し、これまで明確でなかったテンペル・タットル彗星の日心距離に対する光度変化を求めることができた。本発表では、求められた光学式を中心に発表を行なう。